

水とみどりと歴史の 回廊マップ

矢切
地区



「民さんは野菊のような人だ」伊藤左千夫の処女小説の『野菊の墓』の一節です。なんと、その舞台が矢切だって皆さん知っていました？お芝居や演歌で有名な『矢切の渡し』も実は、ここにあるんですね！！悠々と流れる江戸川の川岸に広がるこの地は、古くから栄えた「歴史と文化の町」。矢切を散策してみませんか？

私たち
女子大生2人が
とっておきの矢切を
ご案内します！

シェイプアップの
ウォーキングにも
おすすめの約90分の
コースです！



水とみどりと歴史の散策路 (約 4.8km)

●お問い合わせ●

松戸市役所 都市整備本部 都市緑花担当部 都市計画課 景観担当室
TEL. 047-366-1111 (代表) / 047-366-7372 (直通)

【製作協力】

聖徳大学 児童学部 児童学科 児童文化コース
佐久間奈津絵さん・寺内裕子さん・寺腰有恵さん

1 栗山配水塔

1937年(昭和12年)に建設され、2006年(平成18年)には、土木学会選奨土木遺産に認定された「栗山配水塔」は矢切のランドマーク的存在。今も現役で松戸市や市川市一帯の20万人への配水を担って働いているのです。



2 本久寺(六地藏尊)

本久寺は1690年(元禄3年)に創建されたと言われる法華経の寺。山門前には六地藏尊があります。六体のお地藏様は人が死んだ後に行くと言われる六道(天道・人間道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道)で救済の手を差し伸べてくれる仏様だと言われています。



10 大坂(古戦場跡)

地図中にある三つの家紋は、戦国時代における関東地方の三大合戦の一つとして知られる国府台の戦。1564年(永禄7年)に戦った武士の家紋です。小田原の北条氏と小金の高城氏が手を組んで安房の里見氏と戦をし、北条軍が勝利したけれど、両軍合わせて一万人もの戦死者が出たんですって。その激戦地が西蓮寺と野菊苑の間の坂道「大坂」。



11 西蓮寺・野菊の墓文学碑

標高23メートルの下総台地にある西蓮寺からは、江戸川を隔てて東京を一望することができます。夕方の景色が美しい境内には、伊藤左千夫の処女小説『野菊の墓』の文学碑があります。小説が書かれた明治30年代には、江戸川を貨客のために往復する蒸気外輪船通運丸が遥かに見られたのでしようか。



12 野菊苑

西蓮寺から歩道橋を渡ると野菊苑展望台です。ここからは富士山を望むことができます。桜のときの野菊苑は特にお勧め！



3 柳原水閘

「柳原水閘」は、1904年(明治37年)にレンガを積んで造られた4連の樋門で、市指定文化財や産業考古学会産業遺産に認定された貴重な施設。2004年(平成16年)には、土木学会選奨土木遺産認定を受け、さらに2008年(平成20年)には、近代化産業遺産の認定も受けました。



4 江戸川さくら並木

江戸川スーパー堤防には桜の若木が植えられていて、もう少しすると立派なお花見の名所に！市民の方々から寄付してもらった苗木には里親の名前とコメントが記された記念プレートが付けられています。



5 矢切の渡し

「矢切の渡し」は江戸時代初期にはあった歴史のある渡し舟。映画『フーテンの寅さん』が有名になって、向こう岸の葛飾区柴又のものと同様になっている人もいますが、本当は松戸市矢切の手漕ぎの観光渡し舟。今も1日何回か運航しているので、一度乗って水辺からの景色を堪能してみてください。

運航時間 10時～16時
運航日 3月中旬～11月 毎日
12月～3月上旬 土・日・祝日
※荒天時は運休、1月1～7日、帝釈天縁日の日は運航
料金 中学生以上100円
小学生 50円



14 矢切神社

1704年(宝永元年)6月の長雨で江戸川は大洪水となり、多数の死者が出たそうです。これを期に川岸に住んでいた人達は、台地に移り住みました。矢切神社は、もともと下矢切村で祀っていた稲荷天満宮と素戔嗚神社を合祀したもので下矢切村の村社となりました。鳥居前の狛犬が可愛い！



15 斜面林

松戸市は洪積層の台地と沖積層の低地からできているため、その高低差は、18～20mもあります。その境目には傾斜地が多く、連続した緑地になっていて季節毎に多くの野鳥の姿を見ることができます。



6 日本の音風景100選

耳を澄ましてそっとオブジェの穴に耳を近づけます。そうすると渡し舟の櫓の音や野鳥の鳴き声、風の音、そして対岸の帝釈天の梵鐘の響き。あなたはどんな音に出会えるかしら。



7 川の一里塚

江戸川は水と緑に恵まれた憩いの場。「水辺の健康エコーロード」は、散策や気軽な運動にピッタリ！ちょっと疲れたらここで一休みしてみたいかしら？堤防の主水新田、古ヶ崎、樋野口、矢切の4か所にあります。



8 野間様墓塔

矢切村には、『のまさま』と呼ばれている旗本がいたそうです。野間重成は、1590年(天正18年)小田原の役、1614年(慶長19年)、1615年(慶長20年)、大坂夏の陣で家康軍に名を連ねています。1616年(元和2年)には、その功績によって今の下矢切・上矢切の三百石を与えられたと言われます。その野間重成の宝篋印塔(ほうきょういんとう)の墓塔がこれです。



9 野菊のこみち

1906年(明治39年)『ホトトギス』の1月号に掲載され、夏目漱石も感激したという、伊藤左千夫の小説『野菊の墓』。主人公の政夫は大好きだった民子と言っていた「野菊の生き返りよ」という言葉から、彼女の墓一面に野菊を植えたと言います。そんな物語を思い出しながら恋人と歩いて欲しい散歩道がここです。ちなみに、野菊の花言葉は「清爽」。



ルート以外の紹介

17 葛飾区柴又

「矢切の渡し」を渡る葛飾区柴又です。「山本亭」では、大正末期から昭和初期に建築された和洋折衷の建物や書院庭園を見学することができます。その他、「寅さん記念館」や「柴又帝釈天」などを観光することができます。



18 里見公園(国府台城跡)

市川市の里見公園には、国府台城の土塁状の城郭遺構が今でも残っています。国府台の戦で、夜襲をかけた里見軍が敗れ、多くの犠牲者が出た場所です。江戸時代に作られた里見広次や里見軍将士慰霊の供養塔、石から夜になると悲しい泣き声が聞こえたという伝説の「夜泣き石」があります。



これはいざいざ ミステリー ひょっとするとまだお宝が！
矢切神社の境内に近い堀割跡からダンボール箱で20箱にも及ぶ大量の明銭等が発見されたそうです。戦国時代にこの地で戦った高城氏の軍用金だったとか、敵方の里見氏のかくし財宝だったとか諸説あります。



江戸川とその周辺では四季を通して、いろいろな野鳥が訪れます。ここでは、鳴き声に特徴がある野鳥の一部を紹介します。"耳を澄まして聞いてみて！"

春には、ピーチュクリーチュルと複雑な鳴き声で鳴く留鳥の「ヒバリ」

夏鳥として川の中州などに渡来し、キリキリッと鳴き水面にダイビングして小魚を捕る「コアジサシ」

冬鳥として渡来し、ピーピーと鳴く可愛らしい「ユリカモメ」

夏鳥としてヨシに渡来し、誰はギョギョッ、ギョギョッと鳴き、誰を呼ぶ「オオヨシキリ」

柳の木は3神木

里見公園は桜、バラ園、藤棚、梅林、モミジ林がいろいろあり四季折々の植物が楽しめます

情報・写真提供 自然通信社 田中利勝さん

凡例

駐車場	
トイレ	
歩いた道	
信号	

1:3000
0 100m

葛飾区

松戸市

市川市

北条氏

高城氏

水五則 (太田道隆)

海から 16.75km

四本のケヤキの木

地元の人はこの言い方を「がいは通い」と呼んでいるらしい。名の由来は矢切橋の歩むに書いてあります

市民ボランティアの方々が季節の花を植えつけています

この村でお宝が発見されたそうです

縦がきれい

園地の桜は毎年美しく咲き誇ります

バードウォッチングも楽しめます。双眼鏡を持って出かけてはいかが！

里見公園まで 600m

旧坂川保全堤防 (天保七年の水路跡)

時間があつたら里見公園まで足を運ばしてはいかが！

柴又

スタート

下矢切

下矢切

里見氏

栗山

栗山浄水場

栗山古墳群 日枝神社

トンネル

栗山

(親水広場) 柳原水閘

ちば野菊の里 浄水場

柳原橋

水閘橋

柳原排水機場

水閘橋

水閘橋

水閘橋

水閘橋